

第 14 回(2016 年)

マーサーMPA アワード受賞運用プロダクト概要

目次

1. マーサーMPA アワード受賞会社一覧.....	1
2. マーサーMPA アワードとは？	3
3. 国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要	4
• 東京海上アセットマネジメント株式会社	4
• 日興アセットマネジメント株式会社	5
• みずほ信託銀行	6
• スパークス・アセット・マネジメント株式会社	7
• 三井住友アセットマネジメント株式会社	8
• アバディーン投信投資顧問株式会社	9
• 野村アセットマネジメント株式会社	10
• 日本コムジェスト株式会社	11
4. 外国株式部門受賞運用プロダクト概要	12
• ウェリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド	12
• 三菱UFJ信託銀行	13
• 野村アセットマネジメント株式会社	14
5. 外国債券部門受賞運用プロダクト概要	15
• ピムコジャパンリミテッド	15
• みずほ投信投資顧問株式会社	16
• ラッセル・インベストメント株式会社	17
6. 国内債券部門受賞運用プロダクト概要	18
• 東京海上アセットマネジメント株式会社	18
• みずほ信託銀行	19
• 明治安田アセットマネジメント株式会社	20
7. 国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要	21
• 東京海上アセットマネジメント株式会社	21
• 三井住友アセットマネジメント株式会社	22
• 三井住友信託銀行株式会社	23

1

マーサーMPA アワード受賞会社一覧

第14回マーサーMPA アワード受賞会社は次の表の通りです(カテゴリー内はあいうえお順)。本書は、受賞運用会社から提供された情報をもとに、各運用プロダクトの概要をマーサーがまとめたものですが、作成時点で情報提供がない受賞プロダクトの概要は掲載されていません(カテゴリー内での掲載順は、原則的に情報提供の順です)。

国内株式大型部門 (5年)	
アバディーン投信投資顧問	日興アセットマネジメント
日本コムジェスト	野村アセットマネジメント
スパークス・アセット・マネジメント	みずほ信託銀行
東京海上アセットマネジメント	三井住友アセットマネジメント
外国株式部門 (5年)	
ウエリントン・マネージメント・ジャパン	野村アセットマネジメント
MFS インベストメント・マネージメント	三菱UFJ信託銀行
外国債券部門 (5年)	
ピムコジャパンリミテッド	ラッセル・インベストメント
みずほ投信投資顧問	
国内債券部門 (3年)	
東京海上アセットマネジメント	明治安田アセットマネジメント
みずほ信託銀行	
国内株式中小型部門 (3年)	
東京海上アセットマネジメント	三井住友信託銀行
三井住友アセットマネジメント	

免責事項

マーサーMPA アワードは過去の定量結果だけによる表彰であり、マーサーが顧客に運用プロダクトを推薦する場合に利用する定性評価とは何の関係もないものです。運用プロダクトのリターン・データは運用報酬控除前であり、顧客が利用する際には、運用報酬の違いを考慮する必要がありますので、表彰対象と同じ期間に表彰された運用プロダクトを使っても、表彰と同一の結果を受けられるわけではありません。また、表彰に利用した評価基準が適切な方法であると保証するものではありませんし、表彰のために使ったデータや計算が正しいものであると保証するものでもありません。マーサーはこのアワードを受けた運用会社について何の保証をするものでも責任を持つわけでもありません。過去の実績は将来のリターンを保証するものではありません。

本書でまとめた各社の運用概要は事実であると思われる内容を掲載していますが、事実と異なるとしてもマーサーが責任を負うわけではありません。また、マーサーはこれらの運用を推薦、あるいは媒介・販売する意図を持って掲載しているわけではありません。

本件に関する問い合わせ先

マーサージャパン株式会社

資産運用コンサルティング

03-5354-1461 (代表) investment.japan@mercer.com

2

マーサーMPA アワードとは？

マーサーMPA アワードとは、マーサー ジャパンが日本における企業年金あるいは機関投資家向けのコンサルティング・サービスを提供するために、収集・管理している円ベースの運用リターンの中から、優れた結果を達成した運用プロダクトを讃えるものです。賞の名前は、マーサーで運用リターンを分析するソフトウェアの名前(MPA=Manager Performance Analytics)をとったものです。

アワードの対象とする円ベースの運用リターンは、マーサーのグローバルなデータベースであるGIMDに運用機関が入力したデータの中から、マーサージャパンが選定してパフォーマンス・ユニバースに登録したものを対象としています。ユニバースへ登録されるリターンは運用機関が過去に溯って入力したデータは対象としていません。アワードの選定基準は以下のとおりです。

選定基準

- 企業年金運用における主要なカテゴリー毎に5年あるいは3年で、トータル・リターンと代表的なインデックスに対するインフォメーション・レシオをそれぞれ基準化した数字を合計して、カテゴリー内の上位10%(但し、最大8プロダクトまで)あるいは上位3位のファンドの多いほうを選定しています(なお、国内株中小型、国内債券と外国債券はトータル・リターンのみ)。
- 選定基準日時点におけるデータの入力
- 日本国内に拠点を持つ運用機関が提供する運用プロダクト
- 受賞意思の表明
- 登録運用リターンの正確性の確認
- 表彰対象期間に対象運用プロダクトで継続的に5億円以上の顧客資産額
- 対象カテゴリーの特性に合致(対象期間の対象ユニバースの資産の組み入れ比率が最低時点でも80%以上でかつ平均で90%以上など)
- 実際に独立した運用としてのリターンの計算(グローバル株式運用で日本株を除くなどの計算は不可)

3

国内株式大型部門受賞運用プロダクト概要

東京海上アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	東京海上 AM 国内株式フォーカス
会社概要	<p>東京海上アセットマネジメント株式会社(TMAM)は 1985 年 12 月に設立された資産運用会社です。企業年金など機関投資家や事業法人の顧客向けの投資顧問業務と個人の顧客向けの公募投信の運用などを行っています。</p> <p>当社は、「独自の徹底的な調査と分析を投資の原点に置く」との一貫した運用哲学を全社員が共有し、多様なニーズに応える幅広いラインアップ、きめ細かな顧客サービス、コンプライアンスの遵守などにより受託者責任の完遂を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>GARP(=Growth at a Reasonable Price)スタイルに基づきベンチマーク+αを狙うアクティブ運用です。</p> <p>ボトムアップリサーチにより、高い収益の成長機会を有し、相対的に割安と評価する銘柄への投資を狙っています。業種間の相対優位性を考慮しつつ、原則的に当社の株式投資格付けにおける A 評価の銘柄を優先的に組入れます。集中投資ファンドでありながら、銘柄毎の上昇余地・バリュエーションに留意しつつ、セクターやファクターのリスクを抑制するアプローチを重視しています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	ベンチマーク : TOPIX(配当込み) 目標収益率 : BM+5.0%程度 想定リスク水準 : 4~10%以下
付加価値の源泉	個別銘柄選択:100%

日興アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日興 AM 内株コアアクティブ戦略
会社概要	<p>日興アセットマネジメントは、1999年4月、日興証券投資信託委託株式会社と国内外の年金運用に実績を持つ日興国際投資顧問株式会社が合併、発足し、55年超の歴史を有します。2016年3月現在、英国、米国、シンガポール、シドニー等海外現地法人等を含む約200名の投資専門家を擁し、17兆円を超える受託資産残高を運用しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>(投資哲学) 財務基盤が強く、かつ経営力のある「質の高い企業」は、同業他社と比べて、より高い成長を遂げることができるものと考えます。 相対的に「質の高い企業」を主な投資対象とし、業績の高い伸びが株価に織り込まれていない銘柄や、ファンダメンタルズに比較して割安になっている銘柄に、個別企業調査に基づき選別投資することで、付加価値の獲得が可能になると考えます。</p> <p>(戦略の特徴)</p> <p>①この戦略は、日興アセットマネジメントの国内株式アクティブ運用の原点 ・1つのスタイルに偏らず、多角的に投資価値を分析する当社のリサーチ・プラットフォームをそのまま活用。 ・投資哲学を共有するポートフォリオマネジャーとインハウスのアナリストが協働し銘柄を選択。</p> <p>②長期にわたる運用実績 ・1996年以來の長期にわたる運用実績。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークである TOPIX(配当込)に対して、中長期的に超過収益(目標:年率2.5%)の獲得をめざします。トラッキング・エラーは年率4%程度を目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>企業調査・分析に基づく個別銘柄選択。</p>

みずほ信託銀行

運用戦略名	国内株式リサーチ・グロース
会社概要	みずほ信託銀行は、年金運用などを扱う公的機関や企業年金等、幅広い顧客に対して、さまざまな運用戦略のファンドを提供するとともに、顧客の基本的な資産配分や運用戦略の組み合わせに関するアドバイスなど、顧客の多様なニーズに合わせたサービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	ボトムアップアプローチによるリサーチを通じて企業の潜在的な成長力を捉え、株式市場で十分な評価を得られていない段階で投資することにより、中長期的にベンチマークに対する超過収益の獲得を目指す成長型のアクティブファンドです。「長期的な視点」による企業分析・評価と、「健全な懐疑心」による市場へのチャレンジという二つのマインドセットを組織の理念として重視するとともに、個別銘柄選択に際しては、投資機会における確信度を高めるために「アナリストとファンドマネジャーとの間の活発な議論(=擦り合わせ)」を重視しています。
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ ベンチマーク: TOPIX 配当込み ・ 目標超過収益率: +3.0% ・ 主なリスク管理項目: 推定トラッキングエラー10%以内(バーラモデル)
付加価値の源泉	付加価値の源泉は、インハウスアナリストの企業調査に基づく潜在成長力評価をベースとした個別銘柄選択効果(定性100%)です。

スパークス・アセット・マネジメント株式会社

運用戦略名	スパークス日本株式長期厳選投資戦略
会社概要	<p>SPARX は 1989 年 7 月の創業以来、独立系の投資顧問会社として日本株を中心に企業への個別訪問によるボトムアップ・リサーチを軸に資産運用を行っています。「世界で最も信頼・尊敬されるインベストメント・カンパニー」になるというビジョンのもと、最良のインベストメント・インテリジェンスを投資家に届けることを目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>日本の上場株式全てを投資対象とし、長期にわたって保有が可能と考える限られた数のコア銘柄に投資を行います。SPARX にとって、株式投資とは企業の一部を所有することと同じことであると考えています。創業以来、「マクロはミクロの集積である」という投資哲学の下、個別企業調査が株式投資においてリターンを最大化させると同時に最大のリスクヘッジになると考えています。当戦略では、魅力的な企業には以下のような共通点があると考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい、 2. 本質的に安全なビジネス、 3. 有利子負債が少ない強固なバランス・シート、 4. 高い参入障壁に守られたビジネス、 5. 持続可能な高 ROE とそれに見合う利益成長、 6. 景気動向に左右されず潤沢なキャッシュフローを生み出している、 7. 資本コストを理解し、最適資本配分ができる卓越した経営陣
ポートフォリオのリスク特性	<p>基本的には長期において絶対収益を獲得することを目的としてベンチマークは設定していないため、目標となるトラッキングエラーや期待収益率はありません。</p>
付加価値の源泉	<p>当戦略の追求するアルファの源泉は全てボトムアップ・リサーチに基づく純粋な個別銘柄選択です。</p>

三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式ニューα
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>投資ホライズンを分散した銘柄選択に加え、業種リスク・スタイルリスクを中立に保つことで安定したパフォーマンスを目指す、国内株式アクティブ運用です。</p> <p>伝統的な企業財務分析(ファンダメンタルズ分析)に加え、非財務分析(経営力やサステナビリティ分析)を行い、中長期的な財務面(ファンダメンタルズ)への影響を考慮した銘柄分析を行うことで、安定的な超過収益獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : TOPIX(配当込み)</p> <p>目標推定トラッキングエラー : +3~7%程度</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えております。</p>

アバディーン投信投資顧問株式会社

運用戦略名	アバディーン日本株式運用戦略
会社概要	<p>アバディーン投信投資顧問株式会社は、英国を本拠地としてグローバルに資産運用業務を展開するアバディーン・アセット・マネジメント・グループの日本法人です。親会社であるアバディーン・アセット・マネジメント PLC は、ロンドン証券取引所に上場し、英国の代表的株式指数である FTSE100 インデックスに採用されています。2016 年 3 月末時点のグループ全体の運用資産額は約 47 兆円(1 ポンド=161.5 円で換算)です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>企業訪問を通して調査を行うボトムアップ・アプローチを採用しています。日本株式市場の全銘柄の中から、まず「企業の質」の観点から企業分析を行い、独自の投資ユニバースを組成します。次にそれらの銘柄を「バリュエーション」の観点から、継続的に分析し、絞り込んだ上でポートフォリオを構築します。</p> <p>日本国内に拠点を置く日本株式運用チームが運用を担当します。ファンド・マネジャーはアナリスト業務にも従事しており、チームの合議制で投資意思決定を下します。アバディーン・グループ全体のリソースも、適宜活用します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>TOPIX をベンチマークとしていますが、ベンチマークと乖離する投資配分となることを厭いません。トラッキング・エラーの実績値は概ね 4-10%程度で推移しています。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択(組入銘柄数は 40 銘柄程度)を付加価値の源泉としています。</p>

野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本株式アクティブグロース
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村グループにおけるアセット・マネジメント部門の中核会社としてグローバルに資産運用ビジネスを展開しています。「すべてはお客様のために」という基本観にたち、国内外の顧客や社会からの信頼を獲得し期待に応え、資産運用ビジネスを通じて社会の発展に貢献していくことを目指しています。これまで培ってきたノウハウと経験を活かし、特色あるアジアの運用会社として、最高の付加価値の創造に挑戦することを心がけています。</p>
運用手法の概要・特徴	<ul style="list-style-type: none"> ◆高 ROE を維持できる優良企業を中核とした長期投資を行います 「強さ」と「伸び」の視点で、中長期にわたり高 ROE を維持し、株主資本を着実に積み上げると予想される企業を選別します。 ◆ボトムアップリサーチに基づく銘柄選別を行います セクター配分、規模別配分のターゲットを定めず、ボトムアップリサーチに基づく銘柄選別をベースにポートフォリオを構築します。 ◆組入銘柄数を確信度の高い銘柄に絞り込みます 業績見通しの確信度の高い銘柄に絞り込んで投資し、高リターンを目指します。
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: TOPIX (配当込み) (参考指数 Russell/Nomura Growth インデックス) 目標超過収益率: 4% (年率) 想定トラッキング・エラー: 8% (年率)</p>
付加価値の源泉	ボトムアップ・リサーチに基づく個別銘柄選択 100%です。

日本コムジェスト株式会社

運用戦略名	日本株式戦略
会社概要	<p>日本コムジェストは、1985年にパリで設立された独立系資産運用会社コムジェストの日本法人です。設立来一貫した投資哲学を守り、企業調査に基づくロングオンリーの運用戦略を世界中の投資家様に提供しています。2015年12月末現在グループの預資産残高は、約2兆7千億円です。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>企業調査に基づき、安定した利益成長を長期的に持続できるクオリティ・グロース企業を発掘することを目指しています。5年平均二ケタ成長が可能だと考えられる銘柄を発掘し、チームの合議によって約80銘柄の投資ユニバースを構築。その中からバリュエーションと確信度を勘案し、30-40銘柄で集中型ポートフォリオを構築します。コムジェストの他の地域別チームとの連携により、海外の競争相手、取引先、そして市場動向なども探ります。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>参考指数: TOPIX(配当込み) 目標: 長期的に参考指数より低いリスクで高いパフォーマンス 超過収益率(5年実績): 6.7%(年率・2016/3/31時点) トラッキング・エラー(5年実績): 6.1%(年率・2016/3/31時点)</p>
付加価値の源泉	100%ボトムアップ・アプローチによる個別銘柄選択

4

外国株式部門受賞運用プロダクト概要

ウエリントン・マネージメント・ジャパン・ピーティーイー・リミテッド

運用戦略名	グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)
<p>会社概要</p>	<p>ウエリントン・マネージメントは、世界最大級の独立系投資運用会社であり、資産運用業務に専念しています。日本においては、1997年に東京支店を設立して以来、国内の顧客に運用サービスを提供してきました。2016年3月現在、ウエリントン・マネージメントの運用資産総額は約9,429億ドル(約106兆円)に達し、世界50カ国以上の顧客に、グローバル株式、債券、通貨、コモディティに至るまで多岐にわたる運用アプローチを提供しています。</p>
<p>運用手法の概要・特徴</p>	<p>グローバル・オポチュニティーズ(除く日本)は、企業が保有する資産の真の収益率と投下資本利益率の改善に着目したグローバル・コア・アプローチを採用しています。運用プロセスではファンダメンタル調査を重視し、銘柄選択は特定の投資スタイルに偏向せず、機動的に行います。また、バリューおよびグロース双方の銘柄群にオポチュニスティックに投資を行うことで、投資機会の最大化を追求します。</p>
<p>ポートフォリオのリスク特性</p>	<p>当戦略の投資目標は、3~5年の投資期間においてMSCIコクサイ指数に対して年率2%(報酬控除前)以上のリターンを獲得することです。トラッキング・エラーの目標値は設定していませんが、通常、年率3~6%程度の水準になることを想定しています。</p>
<p>付加価値の源泉</p>	<p>個別銘柄選択に70%、国別配分およびセクター配分に30%の付加価値源泉を求めます。国別配分およびセクター配分はボトムアップの銘柄選択プロセスの結果として決まります。</p>

三菱UFJ信託銀行

運用戦略名	外国株式第 71 ファンド(最小分散ポートフォリオ型)
会社概要	<p>三菱UFJ信託銀行は、企業年金分野で長年培ってきた専門性やノウハウをもとに、企業年金制度の設計から資産運用・管理まで総合的なサービスを提供しております。</p> <p>また、当社では本邦最大級の資産運用機関として、国内外の株式や債券等の運用商品で運用実績や商品性の向上を図るとともに、市況の変化や顧客の運用ニーズを踏まえた商品の開発・提供に取り組んでいます。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>「ポートフォリオの絶対リスクの最小化」のみを目指します。</p> <p>MSCI KOKUSAI 採用銘柄株式を対象に、ポートフォリオのリスクが最小となるように最適化します(現地通貨ベース)。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<ul style="list-style-type: none"> ・ベンチマークなし <p>(「ポートフォリオの絶対リスク(=標準偏差)の最小化」のみを目指すため、ベンチマークは設定致しません。)</p>
付加価値の源泉	<ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの絶対リスクの最小化 ・個別株式の組み合わせの中で最もリスクが低いと期待されるポートフォリオ ・リスクを基準にポートフォリオ構築を行い、投機的な銘柄の影響を排除

野村アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	外国株式最小分散
会社概要	<p>野村アセットマネジメントは、野村グループにおけるアセット・マネジメント部門の中核会社としてグローバルに資産運用ビジネスを展開しています。「すべてはお客様のために」という基本観にたち、国内外の顧客や社会からの信頼を獲得し期待に応え、資産運用ビジネスを通じて社会の発展に貢献していくことを目指しています。これまで培ってきたノウハウと経験を活かし、特色あるアジアの運用会社として、最高の付加価値の創造に挑戦することを心がけています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当運用では『最小分散ポートフォリオ手法』によって、ベンチマークとして用いられることの多いマーケット・インデックスより大幅に低いリスクで、より高いリターンを獲得することを目指します。マーケット・インデックスから離れ、『最小分散ポートフォリオ』の付加価値を最大限に享受できるポートフォリオを構築します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>マーケット・インデックス(MSCI KOKUSAI INDEX)と比べ、大幅に低いリスク(低ボラティリティ、低ベータ)となっています。特にマーケットの大幅な下落局面において、下落抑制効果が期待できます。</p> <p>保有銘柄の業種構成は、ポートフォリオの最適化の結果として、マーケット・インデックスと比べ、生活必需品や公益などディフェンシブセクターへのウェイトが高くなっています。</p>
付加価値の源泉	<p>市場参加者のセンチメントや需給関係を根拠とし、リスク(ボラティリティ)の低い株式の方がリスク(ボラティリティ)の高い株式よりも高いリターンとなる“低ボラティリティ効果”や時価加重指数(マーケット・インデックス)から離れたポートフォリオほどパフォーマンスが良くなる“低相関効果(非時価加重効果)”が検証されています。</p> <p>当運用の付加価値の源泉は「低ボラティリティ効果」と「低相関効果」にあると考えています。</p>

5

外国債券部門受賞運用プロダクト概要

ピムコジャパンリミテッド

運用戦略名	ピムコ外国債券運用
会社概要	<p>PIMCO グループは 1971 年に設立された、グローバルに運用拠点を構える世界最大級の債券運用残高を有する運用会社です。</p> <p>2016 年 3 月末時点の PIMCO グループの受託資産残高は約 1.10 兆ドル(アリアンツ・グループ関係会社からの受託残高を除く)となっており、日本における受託資産額は約 10 兆 4125 億円にのびります。</p>
運用手法の概要・特徴	<ol style="list-style-type: none"> 1) コアアプローチ: ベンチマーク並みにリスクをコントロールした上で、超過収益をあげることを目標とします。 2) 短期的な売買に依らない、長期的なファンダメンタルズを重視した運用を行います。 3) 超過収益源泉を可能な限り分散することで、特定の付加価値源泉から来るマイナスがポートフォリオ全体に大きな影響を及ぼさないような運用を志向します。 4) 多様な超過収益源泉を取得することから来る、多様なリスクを管理するリスク管理システムで意図しないリスクの排除を目指します。
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(除く日本、円ベース)に対して、年率 1.0-1.5%の超過収益を報酬等控除前で達成することを目標としています。</p> <p>また、推定トラッキング・エラーは最大で年率 2-3%で管理することを目標とします。</p>
付加価値の源泉	<p>中長期的に、トップダウン(デュレーション、イールドカーブ、通貨)戦略 50%、ボトムアップ戦略(セクター、銘柄選択、裁定取引)50%の比率で付加価値を実現することを目標とします。</p>

みずほ投信投資顧問株式会社

運用戦略名	MHAM 外国債券アクティブ
会社概要	<p>みずほ投信投資顧問は、みずほの主要グループ会社のひとつとして、その前身を含め 50 年余の運用経験やノウハウをもとに、個人・金融法人・年金などの顧客に資産運用の商品・サービスを提供しています。運用力・営業力・商品開発力の強化と内部管理体勢の充実を図ることで高品質な商品・サービスを提供するとともに、常に顧客に安心して利用してもらえるよう、わかりやすい商品の説明と適切な情報の開示を心掛けています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p><運用手法> ジャッジメンタル・アクティブ <投資哲学> 構造分析により大局観を構築し金融市場の長期トレンドを認識した上で、循環分析および市場分析を併せて行うことで中期および短期トレンドにも配慮した運用戦略を策定することにより、安定的に高い超過収益の獲得が可能と考えます。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク：シティ世界国債インデックス(除く日本、円ベース) 目標超過収益率：年率 1.0%以上 推定トラッキング・エラーの目標：年率 0.4~1.5%</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、カントリーアロケーション 60%、デュレーション 25%、イールドカーブ 10%、クレジット 5%です。 (過去の実績に基づく平均的なウエイト)</p>

ラッセル・インベストメント株式会社

運用戦略名	ラッセル 外国債券マザーファンド
会社概要	<p>設立：1999年3月9日 資本金：16億950万円 事業内容：金融商品取引業、資産運用コンサルティング業 登録・加入協会：金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第196号、一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会 (2016年3月31日現在)</p>
運用手法の概要・特徴	<p>ラッセルは、真に優秀な運用機関はアクティブ運用により付加価値を生み出すことができると考えています。また、優秀な運用機関を評価・発掘し、十分吟味した複数の運用スタイルに分散投資し、個別運用機関やポートフォリオ全体を継続的にモニタリングすることにより、安定的な収益の実現が可能になると考えています。異なる運用スタイルを持つ運用機関を最適な割合で組み合わせるマルチ・マネージャー運用により、金利予測、満期構成、債券種別選択、国別配分、通貨配分、個別銘柄選択といった債券運用における超過収益の源泉や運用プロセスの分散を図り、リスクをコントロールしながら超過収益の獲得を目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>特徴のある運用手法を最大限生かすため、それぞれの運用機関には高いトラック・エラーを許容する一方、補完性のある手法(リターンに負の相関がある)を組み合わせることで、ファンド全体のリスクの軽減を図ります。</p>
付加価値の源泉	<p>国別配分：26% デュレーション/イールドカーブ：19% 通貨配分：16% 債券種別選択：21% 個別銘柄選択：18% これらの想定割合は、組入れた運用会社が、独自の判断に基づく運用の結果としてとっている一般的なリスクの集積を想定したものです。</p>

6

国内債券部門受賞運用プロダクト概要

東京海上アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	東京海上 AM 国内債券ハイアルファ
会社概要	<p>東京海上アセットマネジメント株式会社(TMAM)は 1985 年 12 月に設立された資産運用会社です。企業年金など機関投資家や事業法人の顧客向けの投資顧問業務と個人の顧客向けの公募投信の運用などを行っています。</p> <p>当社は、「独自の徹底的な調査と分析を投資の原点に置く」との一貫した運用哲学を全社員が共有し、多様なニーズに応える幅広いラインアップ、きめ細かな顧客サービス、コンプライアンスの遵守などにより受託者責任の完遂を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI(総合) + αを狙うアクティブ運用。イールド戦略、スプレッド戦略および個別銘柄選択を付加価値とします。金融派生商品を活用することにより、従来型(国内債券アクティブ(総合型)より高いアルファ(超過収益)の獲得を目指します。</p> <p>イールドおよびスプレッドベータを中心としたトップダウン戦略と、ボトムアップ戦略(個別銘柄選択)という複数の戦略へバランスよく分散投資し運用効率を高めることで、長期にわたり安定的な運用を行います。各種デリバティブ商品を活用することで、戦略の多様化・分散化を高め超過リターン目標達成の確実性を高めます。国内籍投信形態での提供とし、各種デリバティブ商品への投資は国内籍投信から特金信託を通じて行います。</p> <p>債券個別ポートフォリオに基づく TMAM USA からの個別投資助言を活用します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : NOMURA-BPI(総合)</p> <p>目標収益率 : 年率 1.0%程度</p> <p>想定リスク水準 : 年率 2.0%以下</p>
付加価値の源泉	<p>超過収益の源泉は、イールド 70%、スプレッド 30%です。</p>

みずほ信託銀行

運用戦略名	国内債券クレジット・スプレッド
会社概要	みずほ信託銀行は、年金運用などを扱う公的機関や企業年金等、幅広い顧客に対して、さまざまな運用戦略のファンドを提供するとともに、顧客の基本的な資産配分や運用戦略の組み合わせに関するアドバイスなど、顧客の多様なニーズに合わせたサービスを提供しています。
運用手法の概要・特徴	<p>対国債スプレッドの伸縮が、信用力要因・市場要因で起こり得るとの認識から、これらに影響を与える評価項目を具体的に絞り込み、トップダウン・ボトムアップ両アプローチによる要因分析を行うことで、超過収益獲得の可能性が高まるものと考えています。</p> <p>以下の3点を当ファンドの特徴(強み)として位置付けています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「信用力重視」の銘柄選択 2. 長期にわたるリサーチのノウハウ蓄積 3. クレジット戦略におけるファンド規模
ポートフォリオのリスク特性	野村 BPI(総合)をベンチマークとし、クレジットリスクに特化した戦略です。
付加価値の源泉	個別銘柄選択 100%でアクティブリターンを追求します。

明治安田アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	日本債券アクティブ
会社概要	<p>明治安田アセットマネジメントは、明治安田生命グループの中核の資産運用会社です。</p> <p>チームアプローチによる運用プロセスと、厳格なリスクコントロールを通じた、高品質で安定性の高い運用サービスの提供を目指しています。運用ノウハウ・人材を結集することで付加価値を創造し、透明性の高い資産運用業務に取り組むとともに、顧客から長年にわたる信頼を獲得し、社会に貢献できる資産運用会社を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>NOMURA-BPI 総合指数をベンチマークとし、これを上回る投資成果を目指します。</p> <p>債券運用においては、トップダウンリサーチによる金利の水準・期間構造の変化を生み出す中期的なマクロ経済トレンドの分析・予測に重点を置き、アクティブなデュレーションの変更、イールドカーブ戦略等により付加価値の追求を行います。一方で、短期的なファクターによる市場リスク増大に対しても迅速に対応することで収益率向上を図ります。</p> <p>クレジット戦略では、クレジット・サイクル分析(種別選択)とアナリストによる信用力分析(個別銘柄選択)が投資判断の基準となります。信用力分析では償還までの保有が可能であることを最重要事項としながらも、ファンド管理上は流動性リスク等へも配慮した戦略運営を行っています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク: NOMURA-BPI 総合</p> <p>目標超過収益率: 0.5% (年率)</p> <p>推定トラッキング・エラー: 0~1.5%</p>
付加価値の源泉	<p>金利選択(デュレーション+イールドカーブ: 70%)</p> <p>クレジット戦略(種別構成選択+銘柄選択: 30%)</p>

7

国内株中小型部門受賞運用プロダクト概要

東京海上アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	東京海上 AM 国内株式スモール
会社概要	<p>東京海上アセットマネジメント株式会社(TMAM)は 1985 年 12 月に設立された資産運用会社です。企業年金など機関投資家や事業法人の顧客向けの投資顧問業務と個人の顧客向けの公募投信の運用などを行っています。</p> <p>当社は、「独自の徹底的な調査と分析を投資の原点に置く」との一貫した運用哲学を全社員が共有し、多様なニーズに応える幅広いラインアップ、きめ細かな顧客サービス、コンプライアンスの遵守などにより受託者責任の完遂を目指しています。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>GARP(=Growth at a Reasonable Price)スタイルに基づきベンチマーク+αを狙うアクティブ運用です。独自の調査をベースとした銘柄選択を付加価値の源泉と位置付けています。</p> <p>当社の調査・運用チームがトップダウンで構想した投資テーマに基づき、潜在的成長業種を絞り込み、その中で個別企業調査を経て選び出した長期成長銘柄に集中投資し、中長期的に小型株ベンチマークをアウトパフォームすることを目指します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク : Russell Nomura Small Cap Index 目標収益率 : BM+5.0%程度 想定リスク水準 : 年率 15.0%程度を意識(ターゲットではありません)</p>
付加価値の源泉	個別銘柄選択:100%

三井住友アセットマネジメント株式会社

運用戦略名	三井住友アセットマネジメント国内株式中小型
会社概要	<p>三井住友アセットマネジメント(SMAM)は、2002年12月に三井住友系保険会社3社と三井住友銀行の運用子会社が合併し誕生しました。「リサーチこそが付加価値の源泉」であるとの信念の下、業界最大級のリサーチ体制を構築しています。リサーチに基づく特徴あるマルチプロダクトを提供することにより、顧客の多様なニーズに対応します。</p>
運用手法の概要・特徴	<p>当ファンドは、ボトムアップ・リサーチにより割安で成長性のある中小型株銘柄に投資するものです。 独自の投資視点「Gro-Val Cha-In(Growth、Value、Change、Information)」を活用し、魅力度の高い銘柄を発掘します。 リサーチについては企業への直接取材を行いません。 3名のファンドマネージャーが年間1000社を超える取材活動をこなすことで、経営者の生の声や直近の情報をタイムリーに入手します。ミーティングはワン・オン・ワン形式を中心に行うことから、経営者との直接面談を通じて、企業の「本質」を把握することが可能と考えています。</p>
ポートフォリオのリスク特性	<p>ベンチマーク：TOPIX(配当込み) スタイルインデックスの対応も可能です。 目標トラッキング・エラー：特に設定していません (BARRAベースで推定10~15%程度の水準)。</p>
付加価値の源泉	<p>個別銘柄選択を付加価値の源泉として考えています。</p>

三井住友信託銀行株式会社

運用戦略名	三井住友信託 K56
会社概要	設立 : 1925年7月28日 総資金量: 72兆4838億円 総資産 : 42兆7054億円 資本金 : 3420億円 従業員数 : 13,552人 (2015年3月31日現在)
運用手法の概要・特徴	<p>国内中小型株を主要投資対象とし、徹底したボトムアップリサーチに市場分析を加味し、成長性・収益性が高く、魅力的な株価水準にある銘柄に投資します。</p> <p>非効率性が高い中小型株に対し、特定のスタイルに囚われず多角的な視点から割安度の高い銘柄を厳選することで、中長期的観点で絶対収益を追求します。</p>
ポートフォリオのリスク特性	対 TOPIX ベースでは小型で高成長銘柄を有するポートフォリオとなっております。
付加価値の源泉	<ul style="list-style-type: none"> ・ミスプライス発掘機会の大きい中小型株市場での銘柄選択 ・1000を超える銘柄をカバーしたボトムアップリサーチ ・「アップサイド・ポテンシャル」と「利益変化の方向性」に着目

重要事項

本文書には、マーサー(Mercer LLC 及びその関係会社を含む)の秘密情報及び専有情報が記載されており、マーサーが定めた当事者以外は使用することはできません。本文書の内容の全部又は一部を、マーサーの書面による事前許可を得ることなく修正したり、販売したり、又は他の個人若しくは組織に提供したりすることはできません。

本文書で明示される所見、評価、又は意見は、マーサーの知的財産であり、予告なく変更される場合があります。これらは、検討対象の投資商品、資産クラス、又は資本市場の今後の運用実績に関し、何らかの保証を付与することを意図するものではありません。また、過去の運用実績は、今後の結果を保証するものでもありません。マーサーのレーティングは、個別の投資助言ではありません。

本文書にはお客様の個別の状況を考慮した投資助言は記載されておられません。予め適切な専門家の助言を得ることなく、又はご自身の状況を考慮することなく、本文書の情報のみに基づいて投資決定を行なうべきではありません。

本文書に記載されている情報は、第三者によるさまざまな情報源の中から得られたものです。本文書の情報が信頼できるものであると見なされる限りにおいては、マーサーは独自に当該情報の検証を試みることはありません。したがって、マーサーは提供された情報の正確性に関する表明、保証を行なうことはなく、いかなる第三者によって提供されたデータの誤記、脱漏、誤りに関し、いかなる責任(間接的、派生的、付随的損害を含む)も負いません。

© 2016 Mercer LLC 無断転載禁ず。



Mercer Japan Ltd
Tokyo Opera City Tower 37/F,
3-20-2 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku
Tokyo 163-1437
Japan
+813 5354 1560